

演題：大揺れのトランプ政権と世界

＝緊迫の度を増す北朝鮮情勢＝

2017年10月18日(水)

時事総研研究員 明石和康

(1) 北朝鮮、ミサイル発射と核実験で暴走続く

・北朝鮮の金正恩体制は、7月に2回の大陸間弾道ミサイル（ICBM）発射、8月29日と9月15日には北海道上空を通過する中距離ミサイル発射、そして9月3日には6度目の核実験と、軍備増強をこれまでにない早いペースで進めつつある。

・北朝鮮の暴走はとどまるどころを知らず、一方のトランプ米大統領は北朝鮮の「完全破壊」に言及するなど、軍事的選択肢を示唆して脅しに出ている。東アジア情勢は、「核戦争の危機」という近年にない最悪の事態に陥る寸前に来たと言っている。国連安保理はたびたび制裁強化の声明を出しているが、実効性は不鮮明。今後のカギを握るのは、中ロの出方が。

(2) 日本の総選挙で日米同盟に変化は？

・トランプ大統領の安倍晋三首相への個人的信頼度は高い。国連演説で「拉致問題」を取り上げるなど、日米同盟は足並みがそろっている。

・総選挙の結果、安倍内閣の力がそがれれば、北朝鮮を含む国際関係や外交に与えるマイナスは大きい。とりわけ、北朝鮮が選挙結果を都合の良いように解釈する恐れは十分ある。

(3) 早くも崩壊の危機に陥るトランプ政権

・トランプ大統領の就任半年（7月20日）の支持率は、わずか36%。

・議会では、内政の最重要課題だった「国民皆保険を目指す医療保険改革法（オバマケア）」の一部撤廃を目指した法案が、7月に上院で否決された。オバマケア撤廃で浮かせた資金を、大幅減税の財源にしようとしたトランプ氏の思惑は外れた。与党共和党内では、「トランプ離れ」が急速に進んでいる。

・今、取りざたされているのは、ティラーソン国務長官が辞任に追い込まれるのではないかとということ。そのような事態が起きれば、政権は崩壊状態に陥る可能性がある。

・ロシア疑惑の捜査進行に加えて、トランプ大統領の言動が「弾劾」要件を十分に満たしているとの見方も出てきた。

(4) 「ディール（取引）」に固執するトランプ外交の失敗

・5月の先進7カ国（G7）サミットでの「反保護貿易」受け入れと気候変動対策のバリ協定拒否は、トランプ流ディール。だが、バリ協定離脱で孤立は決定的に。欧州諸国は早くも、トランプ大統領に見切りをつけている。

・北朝鮮問題をめぐる対中外交もディール。「為替操作国」指定の脅しに加え、シリア爆撃で習近平国家主席を震かさせたトランプ氏。習主席が北朝鮮への圧力強化に同意した途端、「為替操作国」指定を見送るディールで応じたが、中国は北朝鮮を追い詰めない。トランプ氏は7月29日に「中国に失望した。口先だけで何もしない」と非難したが、外交無知をさらけ出したに等しい。

(5) 中国の野望と戦略

・10月の中国共産党大会で総書記再選（任期5年）を目指す習近平主席は、米国の対立激化を望まないものの、北朝鮮問題での対米譲歩は限界に。巨額の対中貿易赤字や通貨安誘導をめぐる米中の攻防は、今後激化する恐れがある。

・かつての最高指導者、鄧小平による「韜光養晦（とうこうようかい）」（出しやばらずに、力を貯めよ）戦略を放棄し、「中国の夢」を追求する習主席の強硬な対外戦略は、いずれトランプ政権との正面衝突に向かう恐れ十分。

(6) ロシア疑惑追及はトランプ政権のアキレス腱

・トランプ氏は対ロ関係でプーチン大統領と親しいティラーソン氏を国務長官に起用し、好転を図ったが、選挙戦中のトランプ陣営とロシアの共謀疑惑が浮上。

・コミー連邦捜査局（FBI）長官解任（5月9日）は、トランプ大統領の命取りになる危険あり。モラー特別検察官の捜査に注目。

(了)

【トランプ政権の歩み】

【1月】

- 20日 トランプ大統領就任。「アメリカ・ファースト（米国第一主義）」を強調。環太平洋連携協定（TPP）からの離脱を正式表明
- 23日 トランプ大統領の就任直後の支持率は過去最低の45%
- 25日 トランプ大統領、メキシコとの国境に壁を建設する大統領令
- 27日 米英首脳会談。トランプ大統領、イラクなどイスラム圏7カ国の一時的な入国禁止を柱とする大統領令に署名

【2月】

- 3日 シアトル連邦地裁、7カ国からの入国禁止令を差し止め
- 10日 日米首脳会談（フロリダ州）
- 12日 北朝鮮が弾道ミサイル発射。日米首脳が非難
- 13日 フリン米大統領補佐官（国家安全保障担当）が辞任
- 15日 トランプ氏、イスラエルとパレスチナの2国家共存に固執せず
- 20日 フリン氏の後任の補佐官にマクマスター陸軍中將
- 27日 米政府、18年度予算で国防費の1割増額（540億ドル）を発表
- 28日 トランプ大統領、初の議会演説、1兆ドルのインフラ投資を表明

【3月】

- 1日 過去最大規模の米韓合同演習開始（～4月30日）
- 6日 北朝鮮、中距離ミサイル4発を日本海に発射。トランプ大統領、イラク除くイスラム圏6カ国から入国禁止の大統領令修正版に署名
- 15日 ホノルル連邦地裁、6カ国入国禁止大統領令の執行差し止め

【4月】

- 4日 シリア政府軍、反政府派に化学兵器サリンを使用
- 6-7日 米中首脳会談（フロリダ州）。初日の夕食会と並行して、米軍がシリアの空軍基地に巡航ミサイル59発を撃ち込む
- 16日 トランプ大統領、中国を「為替操作国」と認定せず。
- 18日 ベンス副大統領が来日し、麻生副総理兼財務相と第1回経済対話
- 26日 トランプ大統領、法人税率の35%から15%への引き下げを柱とする税制改革案を発表。「国境税」は見送り
- 29日 トランプ大統領、就任100日。北朝鮮、弾道ミサイル発射も失敗

敗

【5月】

- 1日 トランプ大統領、金正恩委員長と「条件が整えば会う」と発言

- 9日 トランプ大統領、コミー連邦捜査局（FBI）長官を解任
- 14日 北朝鮮、中長距離弾道ミサイル「火星12」の発射実験に成功
- 16日 トランプ大統領が2月に当時のコミーFBI長官に対し、辞任したフリン前補佐官への捜査をやめるよう圧力を掛けたとの報道。
- 17日 「ロシア疑惑」調査の特別検察官にモラー元FBI長官を任命
- 20日 トランプ大統領、サウジアラビア訪問。イスラム諸国に過激派組織「イスラム国」（IS）との戦いで協力求める
- 21日 北朝鮮、中距離弾道ミサイル「北極星2」を発射
- 22日 トランプ大統領、イスラエル訪問。パレスチナとの和平調停に意欲
- 25日 トランプ大統領、北大西洋条約機構（NATO）首脳会議に出席
- 26-27日 先進7カ国（G7）首脳会議（サミット）。トランプ大統領、「保護主義との闘い」で同意も「パリ協定」で6対1に
- 29日 北朝鮮が弾道ミサイル発射。

【6月】

- 1日 トランプ大統領、パリ協定からの離脱発表。在イスラエル大使館のエルサレムへの移転を先延ばしする大統領令
- 8日 コミー前FBI長官が上院委で証言。フリン前補佐官への捜査打ち切りを求めた大統領発言を「指示」と受け止めたと言
北朝鮮、新型の地对艦巡航ミサイルの試射に成功（4週連続）
- 15日 トランプ政権、キューバ制裁を一部復活。渡航や商取引で規制強化

【7月】

- 4日 北朝鮮、大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星14」発射に成功
- 7日—8日 20カ国・地域（G20）首脳会議で米ロ、米中首脳会談
- 20日 トランプ大統領の就任半年の支持率は36%（ワシントン・ポスト）
- 21日 スパイサー大統領報道官が辞任
- 28日 米上院、オバマケア一部撤廃法案を否決。北朝鮮、「火星14」の2回目の試射に成功。ブリーバス首席補佐官を更迭、後任にケリー国土安全保障長官（31日就任）
- 29日 トランプ大統領、北朝鮮問題で中国に「大いに失望」、「口先ばかりで何もしない」と非難（ツイッター）
- 31日 ホワイトハウスのスカラムチ報道部長、就任10日で辞任（了）

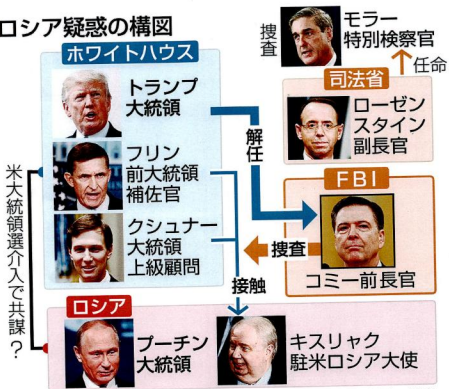
【8月】

- 2日 トランプ大統領、対ロ制裁強化法案に署名

- 8日 トランプ大統領、北朝鮮が米国を脅せば「炎と怒り」に直面すると警告
- 18日 バノン首席戦略官・上級顧問を解任
- 29日 北朝鮮が北海道越えのミサイル発射（火星12）
- 【9月】
- 3日 北朝鮮が6度目の核実験
- 15日 北朝鮮が再び北海道越えの「火星12」ミサイル発射
- 19日 トランプ大統領、北朝鮮の「完全破壊」に言及
- 21日 金正恩氏、「史上最高の超強硬な措置を慎重に検討」と声明
(了)



ロシア疑惑の構図



写真はAFP、EPA=時事

◇北朝鮮の核実験

- 2006年10月 9日 1回目の核実験。プルトニウム型
09年 5月 25日 2回目。プルトニウム型
13年 2月 12日 3回目。小型化成功と主張
16年 1月 6日 4回目。水爆成功と主張
9月 9日 5回目。核弾頭爆発実験成功と主張
17年 9月 3日 6回目。ICBMに装着する水爆実験成功と発表。

◇北朝鮮の核・ミサイルをめぐる今年の動き

- 1月 1日 金正恩朝鮮労働党委員長、ICBM発射準備が最終段階と発言
2月 12日 中距離弾道ミサイル「北極星2」を発射
3月 6日 日本海に向け弾道ミサイル4発発射、3発が日本の排他的経済水域内に落下
5月 14日 新型中距離弾道ミサイル「火星12」発射
6月 8日 新型巡航ミサイル発射
7月 4日 ICBM「火星14」発射、高度2800キロ
28日 深夜に「火星14」発射、高度3700キロ超
8月 10日 米領グアム沖への「火星12」発射計画公表
26日 短距離ミサイル3発発射
29日 「火星12」発射、北海道上空通過（9月15日も）
9月 3日 6回目の核実験。ICBMに装着する水爆実験成功と発表

◇過去に日本上空を通過した北朝鮮ミサイル

【1998年8月31日】長距離弾道ミサイル「テポドン1号」発射。1段目が日本海に落下、2段目が日本上空通過後、三陸沖の太平洋に落下。事前通告なし

【2009年4月5日】長距離弾道ミサイル「テポドン2号」改良型を発射。1段目が秋田県沖の日本海に落下し、2、3段目が東北地方上空を通過後、太平洋に落下。事前通告あり

【12年12月12日】「人工衛星」打ち上げと称し、長距離弾道ミサイル発射。沖縄上空を通過し、フィリピンの東300キロの太平洋に落下。事前通告あり

【16年2月7日】「人工衛星」の打ち上げと称し、長距離弾道ミサイルを発射、沖縄県上空を通過した。ミサイルは五つに分離し、黄海や東シナ海、太平洋に落下。事前通告あり